

ITbook ホールディングスグループ ため池破堤予兆防災 DX を推進します

当社グループの株式会社サムシング（本社：東京都江東区、代表取締役社長：小白川 貢、以下「サムシング」）、ITbook テクノロジー株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：松場 清志、以下「ITbook テクノロジー」）及びみらい株式会社（本社：広島県広島市、代表取締役社長：妹尾 暁）は、当社と広島県三原市（市長：岡田 吉弘、以下、「三原市」）との連携協定により「ため池」の破堤要因の分析や予兆に関する実証実験を実施し、このため池に対しての破堤予兆を推測できることがわかりましたので、お知らせいたします。

昨今、異常気象による豪雨や地震、老朽化等によるため池の決壊が年々増加（被害箇所：約1,000か所/年、被害額：約100億円/年（※1））しており問題となっております。農林水産省が2018年に実施したため池緊急点検では、1,540か所（※2）のため池が応急措置等の対策が必要とされています。

当社は三原市で破堤した「道重池」で要因の調査やモニタリングの実証実験を実施してきました。調査はサムシングが得意とするボーリング調査（標準貫入試験）やSWS試験（スクリーウエイト貫入試験）を駆使し、堤体や堤体下部の土質や強度及び、堤体自身の耐久性について調査を実施しました。また、モニタリングは、ITbook テクノロジーが保有する総合気象観測センサー『Sensu』と気象観測クラウドシステム『みまわり伝書鳩』を活用し、降雨によるため池の水位や堤体内水位の上昇、雨天後の流れ込みによる水位上昇からピークアウトの調査・データ収集を実施しております。これらのデータを分析した結果、どの程度の水位上昇まで堤体が耐えられるか等の推測ができることが判明し、水位上昇時に適切な避難勧告や事前対策を実施することが可能であることがわかりました。

当社グループは、引き続き調査・データ収集を進め、ため池問題の解決を目指してまいります。

※1 出典：農林水産省「ため池」

※2 出典：農林水産省「全国ため池緊急点検の結果について（平成30年8月末時点）」



モニタリングの様子（『Sensu』『みまわり伝書鳩』）



堤体調査の様子（ボーリング調査（標準貫入試験））

以上

【本プレスリリースに関する問い合わせ】

ITbook ホールディングス株式会社 URL: <https://www.itbook-hd.co.jp/> IR担当:野間・山本

Tel. 03-6770-9970 Fax. 03-4363-1154